

千葉市民における

自治意識の世論調査について

—主として中央・北西部を中心として—

松 井 喜 代 司

は し が き

この報告書は、政治学研究の一端として実態調査を試みたものであるが、調査員が政治学選択ゼミ学生であったので基礎的な調査方法を教導しつつ、討議学習、自発学習や共同思考の力を育てていくことに重点をおいたことを予めお断りしておく。そこで便宜上グループをつくりそれぞれの調査設計の分担をとりきめ、学生の感想や批判を報告してもらったこととした。何分にも初めてのことなので時間の制約、資材の不足、学生の病欠、調査の不馴れなどもあって調査対象地域を本学周辺にシボリ、主として千葉市内の中央および北西部住宅に居住する満20才以上の男女を対象としておこなった世論調査の結果を分析、解説したものである。そんなわけで調査の目的やその背景、問題意識等については若干、調査方法を間違っただけのものや、資料としての信憑性に欠けるものも多少見出されるが御許しを乞う。ただわれわれがこの調査を実施するにあたり、たえず問題意識としていたのはつぎの点にあった。

今日、わが国の地方行政制度は大きな変革期をむかえようとしていることは言をまたない。政府が強く推進していた「都道府県合併特例法案」や財界畑の期待していた「道州制構想」、またこれと表裏一体をなしている「広域市町村圏構想」をはじめ、大都市制度の検討など地方行政制度の改革をめぐる論議が沸騰しているのは日常茶飯時である。こうした情勢の進

展のなかで千葉市における「京葉工業都市構想」が新たな課題を提起し、波紋をよびかけそうな心配さえいだかせしめていることも事実である。卒直に言ってここに指摘される問題は、かりに京葉工業地帯の開発が今後とも計画通りの規模と速度で推進されたとしても、なおそこに都市的な施設を設備し、住民に快適な生活環境を提供するという課題が残されているということである。直言すれば工業開発、必ずしも都市づくりの努力とは結びつかず、かえって深刻な問題を誘発する傾向さえかもしだしていることになる。東大の井出教授が「地方自治の政治学」—コンビナート建設と自治体—のなかで「マスタープランときれいなインダストリアル・パークの建設にいたる道は、なお陰しく遠いといわねばならないであろう」と警告をしていたが、たしかに千葉市の行政制度は川鉄との関連においての財政権限の強化作用、港湾事業構造に関する諸問題、そしてまた今後、大いに躍進していく京葉臨海工業地帯建設計画の地域開発ブームを眺望してみなければならぬであろう。だが京葉工業大都市としてのビジョンを軌道に乗せてどのように変革しようともその基調は、千葉市における民主主義、自治の可能性を最大限に保障するものでなければならない。もとより本調査はこれらの問題の解明を直接的な目的としたものではないが、行政制度の変革期における市民の自治について考える際の有力な材料となることを信じている。事実、調査結果の分析をみると一つひとつの質問には、赤裸々な市民の意識が反映されている。もちろん、満20才以上の男女を調査対象者としているから、このつかみどころのない広範な階層にたいして、どのような角度からアプローチし、実態調査をおこないえたかという点では、同じような問題意識をもつ政治学関係の研究者の間でも意見がマチマチであり、十分成算ある調査方法について確たる見通しをもつことは頗る困難であった。しかし私は一つには本学における政治学ゼミ研究前進のため、二つには「わがふるさと」に報いんものと思い、私の議員生活中に学ばせていただいた「東京都民の自治意識と特別区政に関する世論調

千葉市民における自治意識の世論調査について

査」(東京都政調査会)の資料を参考として、基礎的な指導をしながらこの調査にとりくんでみた。

願わくば本報告書が、県市政にたずさわる人はもちろん、一般の市民にも広く利用されて、地方自治の発展に役立つことを念願して止まない。尚、この調査にあたって千葉市役所市民課に種々ご協力いただいたことを感謝すると共に、快く質問に応じて下さった調査対象者の方々に心からお礼を申しあげたい。また本調査は個別面接聴取法を採用したために学校の休日、あるいは授業終了後を利用して終始活躍してくれたゼミ学生諸君に負うところが多かった。就中、この調査報告をものすに当って最後まで自発的に協力してくれた斎藤、鈴木、青木、木村、広瀬の5名に対して謝意を表したい。

I. 調査の目的と設計

この調査は千葉市民の自治意識の実態とその構造を科学的にとらえ、千葉市政に関する市民の意見を明らかにすることを目的としている。その内容を要約するとおおよ次のように分別することができる。まず最初に調査対象の特性を提示し、次いで「市政に関する市民の知識」、「経験からみた市民の意識」、「市行政に対する市民の期待」、「市議報酬問題と市民の反応」というように目的を定め、それぞれの項を設け、回答者ができるだけ回答しやすく、また聴取者ができるだけ聴取しやすいように質問項目の配列をきめた。もとより調査票には回答者の心理的要素、あるいは調査員の誘導性などをできる限り考慮して作成したつもりである。参考までここに調査票を掲載してみよう。

なお「市行政に対する市民の期待」・「市議報酬問題と市民の反応」についての調査報告は枚数制限の関係から省略することにした。

図表1. (調査票) 別頁折込み

調査票を一瞥してみると調査の目的がより理解されたことと思う。すなわち第1の目的は市政に関して市民が基礎的な知識をもっているか、どうかを知ることにあつた。果せるかな、われわれは調査の結果、市民の市政に関する基礎的知識の乏しさが示されているのを発見した。もちろん知識の乏しさは自治意識の希薄さとイコールするものではない、としても市政に関する知識の有効な活用がなければ、能動的な住民参加の政治はとても望めるものではない。その意味からいうと、どんなに自治意識が高くても実際問題を忌避したり、ノー・タッチの姿勢をとるかぎりそれは無用の長物になるのである。従つて市政に関して市民が基礎的な知識をもっているか、どうかという度合を知ることには大変重要なことであり、この調査全体のなかでは基礎的な位置が与えられることになっている。第2の目的は千葉市の地域政治の構造とそれに接触する市民の姿勢を知ることである。役所と市民の接触度、市政に関する情報の径路、身近な問題の処理方法、市民の末端の政治組織である町会、自治会に対する意見など、多角的な角度から市民の意見を求めることによって自治意識を析出することにつとめた。またこの分析のうえにたつて市民は市行政に何を期待しているかを追究してみることにした。第3の目的は自治意識の核ともいえる市長問題についての意見を知ることにあつた。これについては多くを語らないとしても地方政治における首長は、二つの顔をもっているといわれているので、その性格を市民がどのようにうけとめているかを探ってみることにした。第4の目的は現行地方自治制度の改革をめぐる問題について、市民がこれをどのように認識し考えているかの点であつた。一大工業都市として変貌していく千葉市は行政の広域処理体制の必要を自ら生ぜしめている。その意味においてわれわれは千葉市制そのものの再検討という新しい情勢が加わっていることを見逃すことができない。健全なるインダストリアル・パーク像をもつて君臨している千葉市は日本経済と企業の動向の間隙にあつて大きく左右されるであろうことは必至である。千葉市の住民はこの有様

図表1・調査表

自治意識調査表	住所	千葉敬愛経済大学松井ゼミナール	
	氏名	調査員名	
あなたは、この一年間に役所に出かけたり電話をした経験がござい ますか	1. 市役所 2. 県庁 3. どちらもなし 4. その他		
あなたご自身が（又はあなたの家で）市民税をいくら払っているか金 額をご存知ですか	1. はっきり知っている 2. だいたい知っている 3. 知らない 4. 払っていない 5. その他		
あなたは現在住んでいる市の人口はどのくらいご存知ですか	1. はっきり知っている 2. だいたい知っている 3. 知らない 4. その他		
あなたは現在住んでいる市の市長の名前をご存知ですか	1. 知っている 2. 聞いたことはあるが覚えていない 3. 知らない 4. その他		
市長は、今どんな方法で決められると思いますか	1. 市民の選挙によって決める 2. 県知事が任命して決める 3. 市議会ですら 4. わからない 5. その他		
あなたの市の市議会議員や県議会議員の名前をご存知ですか	1. 市議会議員も県議会議員も知っている 2. 市議会議員だけ知っている 3. 県議会議員だけ知っている 4. どちらも知らない 5. その他		
市のやっている仕事や市がかかえている問題などについてあなたは次 のうち主に何によって知りますか	1. 市の「お知らせ」で 2. 新聞で 3. ラジオ・テレビで 4. 町会、自治会を通して 5. 議員の話などで 6. その他		
あなたはいつからこの市に住んでおられますか	1. 明治 年から 2. 大正 年から 3. 昭和 年から 4. その他		
あなたが現在この市に住むようになったのはどんな事情からですか	1. 通勤に便利 2. 商店、工場その他仕事の都合から 3. 住宅の事情から 4. 環境がよいため 5. ここに生まれて何となく 6. その他		
それではあなたの希望をおたずねしますが、今後ともこの市に住みつ づけたいと思いませんか、それともよその市に移りたいと思いませんか、 その理由として次のうちから選んで下さい (イ)住みつづけたい 理由	1. 通勤、買物など交通の便がよいため 2. 道路、水道、下水道などの 施設が整っているから 3. 自然環境に恵れているから 4. 住宅の事情 に満足しているから 5. 商売、事業その他の事情でこの地域を離れた くないから 6. 子供の教育、環境に適しているから 7. 住みなれてい るから 8. その他		
同 上 (ロ)よそに移りたい 理由	1. 通勤、買物など交通の便がわるい 2. 道路、水道、下水道などが不 便 3. 風紀上、その他社会的環境が悪い 4. 住宅の事情がわるいから 5. 商売、事業その他の営業上の都合が悪いから 6. 交通、災害や騒音 大気汚染、地ばん沈下など公害がひどいから 7. その他		
あなたは今の市の仕事のやり方にどのような改善を望みますか 特に希望する事を次のうちから選んで下さい	1. 窓口事務を能率化、迅速化してほしい 2. 市の「お知らせ」を充実 させてほしい 3. 土曜、日曜も窓口を開いてほしい 4. 昼休みも窓口 を開いてほしい 5. だいたいの用事は出張所で済むようにしてほしい 6. 市民からの問合せは迅速に回答してほしい 7. その他		
あなたは次の仕事のうち、特にどれに力を入れてほしいと思いませんか 次から2つ選んで下さい	1. 小中学校の施設の充実 2. 学童交通安全 3. 幼稚園建設 4. 学童保育 の充実 5. 図書館増設・拡充 6. 保健所の増設 7. 老人福祉対策 8. 生活保障対策 9. 児童遊園地や公園の充実 10. スポーツ施設の充実 11. 公衆便所の増設 12. 市道街路灯の整備 13. 違反建築取りしまり 14. なし 15. わからない		
県や市の仕事であなたの身近に問題がおきたときあなたはどうします か	1. 県や市に連絡する 2. 近所の人と相談する 3. 知っている議員と相 談する 4. 土地の有力者に相談する 5. 町会、自治会で取りあげても らう 6. 放っておく 7. わからない		
町会、自治会についてあなたのご意見をうかがいたいと思いませんか (イ)町会、自治会が一番力をそそぐべきだと思う事を次のうちからえ らんで下さい	1. 消費物資の共同購入・商店対策 2. 県や市に対する要求陳情活動 3. 葉の撒布など、市の仕事の補助 4. 親睦活動 5. 料理や手芸などの 講習会 6. とくになし 7. その他		
あなたは、今の町会や自治会にはどんな欠陥があると思いませんか (ロ)主なものを1つえらんで下さい	1. 会の運営の仕方が民主的でない 2. 会費はとるが何をしているかわ からない 3. 行事が多すぎる 4. 一部の政党や議員に結びついている 5. 行政の下請機関になり下がっている 6. とくになし 7. その他		
最近、議員の「報酬」が問題になっておりますが、あなたのご意見を うかがいますが、次のうちから1つ選んで下さい	1. 値上げをしてもよいから十分活動してほしい 2. 4年間据置きにな っていたから値上げはやむを得ない 3. 今の議員活動の内容から見て 値上げは適当でない 4. 4年間の契約でなかったのだから任期中は自分 たちの値上げはすべきでない 5. 値上げより先にやる仕事がある 6. とくになし 7. わからない		
議員の報酬のきめる機関に「報酬審議会」がある。この会の委員はど んな人がなればよいと思いませんか	1. 議員の代表 2. 一般の市民 3. 市の理事者 4. 学者や文化人 5. 町会・自治会の役員 6. わからない 7. その他		
現在の議員の報酬の決め方には、はっきりした基準がありません。も し、この基準をつくるとすれば次のうちどれを考えるのが最も適当と 思いませんか	1. 市内勤労者の平均所得 2. 公務員の平均所得 3. 市役所の部長クラ スの所得 4. 民間会社の重役の給与 5. わからない 6. その他		
あなたは市議会議員に対して、どんな希望をおもちですか 次のうちから2つ選んで下さい	1. 政策をもつこと 2. 議員の仕事に専念し専門家になること 3. 市政全体の発展を考えること 4. 政党の立場をはっきりさせること 5. 地元の世話を重視すること 6. いばらずに庶民の感覚をもつこと 7. 不正汚職の監視にきびしいこと 8. その他		
次にあなたのことについていろいろおうかがいしたいと思います。 立入った質問をして失礼かと思いますが、さしつかえのない限りお答 え下さい。年齢 性別	満 才 (男・女) いづれかに○印		
あなたが最後にはいられた学校はどこですか	1. 尋常小 2. 高等小 3. 新制中 4. 旧制中 5. 新制高 6. 旧制高 旧制専門 7. 短期大学 8. 4年制大学 9. その他		
あなたの職業は何ですか（できるだけ具体的に詳しく）			
あなたご自身の最近の収入はどのくらいですか (1. 2. 3. のいずれでも結構です)	1. 1年間の総収入 2. 1ヶ月平均収入 3. 収入なし 4. わからない 5. その他		
あなたがお生まれになった所はどこでしょう	1. 他の村県 2. 都内の他の区市町 3. 現在市 4. その他		
あなたの勤め先はどこですか。あるいは仕事場はどこですか	1. 自宅（又は近所） 2. 市内 3. 他の場所 4. その他		
職場までの通勤時間はどのくらいかかりますか	1. 30分以内 2. 1時間 3. 2時間 4. 2時間以上		
あなたは市内で転居されたことがありますか	1. なし 2. 1回 3. 2回 4. 3回 5. 4回 6. 5回以上		
あなたが今住んでいる住宅はどんな種類のものですか	1. 持家 2. 公社、公団、都営住宅 3. 民間の賃貸アパート 4. 貸間 5. 貸家 6. 住宅、寮 7. その他		
あなたは昭和50年度に施行された地方自治選挙（市議会議員）には投票 しましたか	1. 投票した 2. 棄権した 3. 忘れてしまった 4. その他		
あなたは現在どの政党を支持していますか	1. 自民党 2. 社会党 3. 民社党 4. 公明党 5. 共産党 6. 支持政党なし 7. わからない 8. その他		
あなたは政治家（過去、現在を通じて）のうち誰れが好きですか			

千葉市民における自治意識の世論調査について

をどのように展望しているか、検討してみる必要があった。第5の目的は最近、地方政治の議論が活発となってきたので、市民が地方議会全般について何を考え、どのような意見をもっているかを調査することに興味を感じた。特に議員の“お手盛り金”といわれている報酬引き上げ問題などは至るところで問題化しているから。今後、審議会のあり方や、報酬の考え方そのものについての意見などが多角的に論じられているので、市議会議員選挙への参加状況を知るための調査とあわせて、市民がどのような態度で地方政治に参加するかを調べるためにも必要なことである。本調査の目的は以上のような背景と問題意識によって構成したものであるが、要は自治の実態とありうべき姿をそのまま描出したものであることを記しておく。それでは調査の設計を項目別に述べてみる。

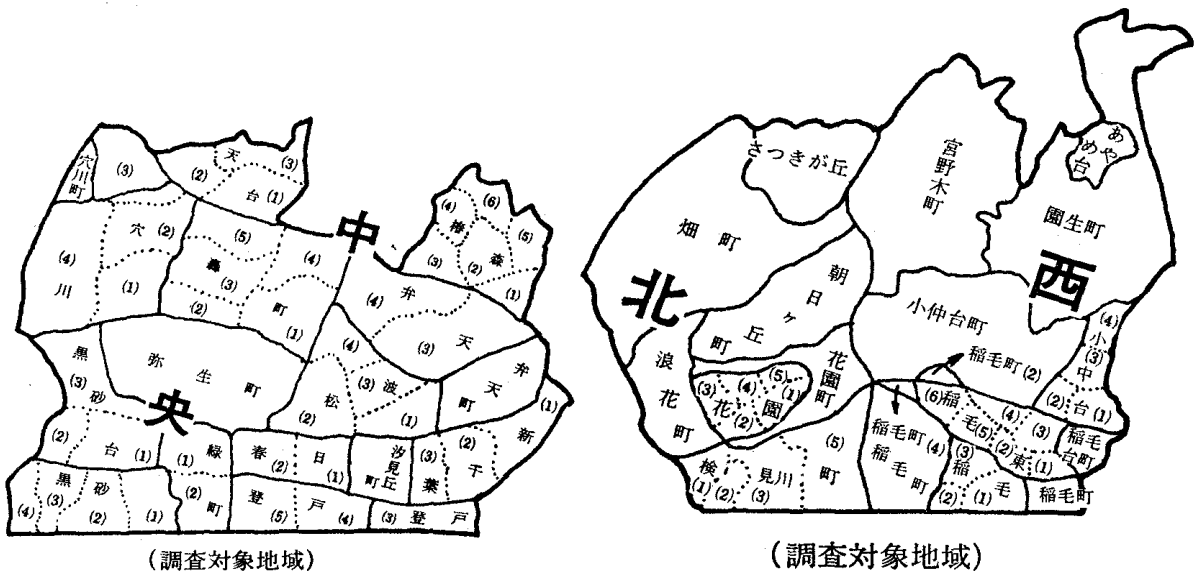
1. 調査対象 千葉市内在住の満20才以上の男女（ただし外国人は除く）
2. 調査地域 千葉市内中央部—北西部住宅地域を中心とした。
3. サンプル数 2,000枚
4. 標本設計 前掲（参照されたし）
5. 抽出方法 20才以上の男女の対象者数2,000人中より、それぞれの階層にわけて200人の抽出数をきめた。
6. 実査方法 調査員による個別面接聴取方式をとる。（男女年令別に10班を形成し、1人20枚を単位とした）
7. 調査回収 調査の回収率は80%を目途とする。
8. 調査期間 1976年6月1日～12月20日まで。（授業時間を加味して）
- ・ 調査担当 千葉敬愛経済大学政治学（2年）ゼミナール

II. 回収結果と調査対象の特性

I. 回収結果

(A) 有効回収票 1,637票

有効回収票は1,637票で81.85%の回収率である。内訳をみると男834人の51%，女803人の49%でほぼ同じ回収率となっている。男女年齢別構成表をみると60才以上の女の回収票が約半数になっているが、これは調査員が途中病気長欠したためによるものである。それでは調査地区にあてた千葉市内の中央－北西部住宅地域の町名を参考まで記しておこう。まず本学の所在地、穴川町を中心として裏町、松波町、弥生町、弁天町、汐見ヶ丘、登戸町、春日町、黒砂、緑町、黒砂台、小仲台、天台、椿森、稲毛、稲丘、宮野木、畑、花園、園生、花見川、長沼、検見川、さつきヶ丘、こてはし台、幕張等である。(図表2地域区分図)



千葉市民における自治意識の世論調査について

(B) 回収不能票 363票

回収不能票は 363 票で総数の 18.25 % である。調査設計に示しているように調査班はゼミ 2 クラスを男女年令別に 10 班ずつ形成し、調査票用紙 1 人 20 枚を責任分担として割当て、実査することにしたがたまたま調査員のなかで先ほども述べたように長期病欠欠席者、学籍移動の止むなき理由によるものがたために以上の如き結果に終わったことを添筆しておく。したがって各層における調査結果をみると平均して 2 名分 (40 枚程度)、回収不能となっている。図表 3. による男女年令別回収、不能表を参考まで一瞥賜れば幸甚である。

図表 3. (男女年令別回収・不能数一覧表)

男 年令別	回 収 数	不 能 数	女 年令別	回 収 数	不 能 数
20～29才	157	43	20～29才	189	11
30～39	140	60	30～39	180	20
40～49	158	42	40～49	160	40
50～59	179	21	50～59	119	81
60才以上	200	0	60才以上	155	45
計	834	166	計	803	197

2. 調査対象の特性

調査対象の特性について各質問項目別の集計結果 (図表 4) を掲げてみたが、おもなものをひろってみると次の如く要約されよう。まず調査対象者の学歴をみると新制高卒以上の男女が半数以上を占めていること。出生地別からみると千葉市以下つまり他の府県から転居、移転してきたものが圧倒的に多いこと。住居形態別には持家と民間賃貸アパートとが全体の 8 割を占めていることなどが特筆される。なおこの土地は戦後、引揚者や罹災者の人たちが可成り多く居住していることを念頭にしておく必要がある。また現在市定住の意思においては、住みつづけたいと答えている人が 7 割弱もあり、地方出身者のうちでアパートを借りて住んでいるものが

図表 4. 調査対象の特性

① 男女・年齢別構成の集計結果			実数	%
才	才			
20~29 (男)		157	157	9.6
20~29 (女)		189	189	11.5
30~39 (男)		140	140	8.6
30~39 (女)		180	180	10.9
40~49 (男)		158	158	9.7
40~49 (女)		160	160	9.8
50~59 (男)		179	179	10.9
50~59 (女)		119	119	7.3
60才以上 (男)		200	200	12.2
60才以上 (女)		155	155	9.5
計		1,637	1,637	100

② 学歴別構成の集計結果			実数	%
尋	常	小	254	15.5
高	等	小	190	11.6
新	制	中	55	3.4
旧	制	中	185	11.3
新	制	高	351	21.4
旧	制	高・旧制専門	142	8.7
短	期	大	113	6.9
大	学		238	14.5
そ	の	他	109	6.7
計			1,637	100

③ 職業別構成の集計結果			実数	%								
専	門	的	技	術	的	職	業	従	業	者	69	4.2
管	理	的	職	業	従	業	者	85	5.2			
事	務	従	業	者	234	14.3						
販	売	従	業	者	75	4.6						
運	輸	通	信	従	業	者	28	1.7				
技	能	工	生	産	工	程	従	業	者	61	3.7	
及	び	単	純	労	働	者						
サ	ー	ビ	ス	職	業	従	業	者	81	5.0		
主	婦				421	25.7						

④ 収入階層別構成の集計結果			実数	%			
学	生	及	び	無	職	412	25.2
そ	の	他	171	10.4			
計			1,637	100			

⑤ 出生地別構成の集計結果			実数	%					
他	の	府	県	743	45.5				
県	内	の	他	の	市	町	村	274	16.7
現	住	所	477	29.1					
そ	の	他	143	8.7					
計			1,637	100					

⑥ 勤務地別構成の集計結果			実数	%			
自	宅	(又	は	近	所)	460	28.1
市	内	425	26.0				
他	の	市	190	11.6			
他	の	県	74	4.5			
県	下	の	市	町	村	23	1.4
そ	の	他	465	28.4			
計			1,637	100			

千葉市民における自治意識の世論調査について

⑦ 通勤時間別構成の集計結果				
	実数	%	実数	%
30分以内	463	28.4	その他	117 7.1
30分～1時間	295	18.0	計	1,637 100
1時間～1時間半	85	5.2	⑪ 現住市来住の理由の集計結果	
1時間半～2時間	58	3.5	実数	%
2時間以上	25	1.5	通勤に便利だから	251 15.3
その他	711	43.4	商店工場その他仕事の都合から	305 18.7
計	1,637	100	住宅の事情から	418 25.6
⑧ 転居回数別構成の集計結果			環境がヨリよかったから	120 7.3
	実数	%	ここで生まれたので	302 18.4
なし	1030	62.9	なんとなく	
1回	344	21.0	その他	241 14.7
2回	147	9.0	計	1,637 100
3回	52	3.2	⑫ 現住市定住の意思の集計結果	
4回	15	0.9	〔Ⅰ〕 住みつづけたい	
5回以上	15	0.9	実数	%
不明	34	2.1	通勤買物などの交通の便がよいから	350 22.8
計	1,637	100	道路・水道・下水道・ガスなどの施設がととのっているから	35 2.2
⑨ 住居形態別構成の集計結果			自然の環境にめぐまれているから	111 7.2
	実数	%	住宅の事情に満足しているから	167 11.0
持家	1,076	65.7	商売・事業その他の事情でこの地域をはなれたいから	151 9.8
公社・公団・県(市)営住宅	151	9.2	子供の教育や環境に適しているから	56 3.7
民間の賃貸アパート	128	7.8	住みなれたところなのでよそへ行きたくないから	464 30.3
貸間	16	1.0	その他	199 13
貸家	104	6.4	計	1,533 100
社宅・寮	90	5.5	⑬ 〔Ⅱ〕 よそに移りたい	
その他	72	4.4	実数	%
計	1,637	100	通勤・買物など交通が不便だから	21 20.1
⑩ 現住市への来住年代別構成の集計結果			道路・水道・下水道などが下備だから	5 4.8
	実数	%	風紀上その他社会的環境が悪いから	10 9.6
明治時代	19	1.2		
大正時代	82	5.0		
昭和20年以前	214	13.1		
昭和21年～25年	182	11.1		
昭和26年～30年	252	15.4		
昭和31年～40年	334	20.4		
昭和41年～50年	437	26.7		

	実数	%
住宅の事情が悪いから…	13	12.5
商売・事業その他の営業上の都合が悪いから	5	4.8
交通災害や騒音・大気汚染・地盤沈下など公害がひどいから	30	28.9
その他……………	20	19.3
計……………	104	100

⑭ 50年・市議選への参加の状況
集計結果

	実数	%
投票した……………	1,134	69.3
棄権した……………	147	8.9
わすれてしまった……………	145	8.9
その他……………	211	12.9
計……………	1,637	100

⑮ 政党支持の状況の集計結果

	実数	%
自民党……………	483	29.5
社会党……………	175	10.7
民社党……………	48	2.9
公明党……………	74	4.5
共産党……………	59	3.6
支持政党なし……………	580	35.5
わからない……………	141	8.6
その他……………	59	3.6
不明……………	18	1.1
計……………	1,637	100

政治学ゼミ—昭和51年6月施行—

(二年生2クラス)

千葉敬愛経済大学

学籍番号 _____ 番

住所 _____

担当責任者 _____

非常に目立っている。しかも余程この地が住みよいとみえて、ずっと「住みつづけたい」という30年代と「住みなれた」という40年代～50年代の意見がすこぶる多い。ちなみに昭和26年から今年までをみてみると、うなぎのぼりに現在市に来住する人がふえており通勤、買物などの点から交通の便がよいという理由を述べている。このぶんでいくとマンモス・ベッドタウンになりかねない。一体に旧千葉市の中央—北西部にかけての郊外地区一帯は新田開発地区であって、ひところは兵器廠や気球隊、戦車学校というように軍事基地でさへもあった。そんなわけで昔から住んでいる土着の人は数少なく千葉・寒川・登戸・黒砂の入会地さながらのさびしい土地柄であった。昭和20年(1945年)千葉市が空襲され、一夜に戦禍の火災が都市建築物の70%を灰燼にし、荒寥たる焼野原となったが、ここら辺一帯の人家は別に被害はなかった。— 朝霧はれゆく 寒川沖を 希望の風に 白帆を揚げて 心あわせて漕ぎゆく如く ああ ああ ああ玲瓏と建設の意

千葉市民における自治意識の世論調査について

気高らかの吾が千葉市⁹ 一わが心のふるさと、千葉市歌の第3節の歌詞であるが、たしかに30年前の古い千葉は亡び、玲瓏と建設していく意気高らかの新しい千葉市が復興したことは言をまたない。ともあれ終戦直後、千葉市も戦災都市復興の基本方針をうちだし、千葉市発展の将来から市街地の地域区分がなされた。復興都市計画の内容については省略するとしても千葉市の北部丘陵地帯は戦後、土地区劃整理事業の一環として施設建設がおこなわれ、東大第二工学部の開校、住宅営団の経営、国電西千葉駅の開設、そして区劃整理後は海岸を前面にひかえた閑静な住宅区を設定するに至ったことも事実である。また市街地区域を土地利用の立場から考慮し、普通工業地区として一般工業の発展に資することにつとめ、都市機能を最高度に発揮させ、市民の日常生活に便宜を与えている。したがって人口増加の趨勢は旧市域より外周の葛城、弁天、裏、登戸、松波、弥生、黒砂等の郊外に集中し、主として省線沿線地域に延び拡がっている。もちろんこのことは県市営住宅建設によるものであることは言及するまでもない。つぎに政党に関してであるが、支持政党は調査の結果、「自民党」が一番多く29.5%、「社会党」10.7%、「公明党」4.5%、「共産党」3.6%、「民社党」2.9%となっているが、それにも増して多いのは「支持政党なし」の35.5%である。残りの13.3%は「わからない」、「不明」、「その他」となっており、政党より人物の方がウエイトを占めている。50年におこなわれた市議会議員の選挙には「投票した」ものが69.3%の成績であった。「棄権」8.9%、「わすれてしまった」8.9%、「その他」が12.9%となっている。従来、千葉市は自民党王国の金城湯池であったが大工業誘致にともない、漸次保革激戦区の要地となりつつあることはいなめない。先に掲載しておいた調査対象の特性^⑭、すなわち50年度におこなわれた市議会議員選挙への参加の状況に関する集計結果を男女年令別に分析してみるとおよその見当がつくであろう。また^⑮の政党支持状況の集計結果をみると明白である。(図表5.6)

図表 5. (属性別市議会議員選挙の参加状況における集計結果表)

年 令 別		投票した	棄権した	わすれて しまった	そ の 他	実 数	%
20～29才	男	53	23	23	58	157	9.6
	女	58	22	15	96	189	11.5
30～39才	男	92	11	24	13	140	8.6
	女	148	11	11	10	180	10.9
40～49才	男	134	9	5	10	158	9.7
	女	132	12	11	5	160	9.8
50～59才	男	156	11	5	7	179	10.9
	女	95	4	11	9	119	7.3
60才以上	男	170	15	12	3	200	12.2
	女	96	31	28	0	155	9.5
合 計		1134	147	145	211	1637	100

図表 6. 属性別政党支持状況における集計結果表

年令別		自民党	社会党	民社党	公明党	共産党	支持政 党なし	わから ない	その他	不明	合計
20～29才	男	30	8	1	9	7	74	17	11	0	157
	女	25	9	2	5	7	110	23	8	0	189
30～39	男	30	19	8	5	15	53	4	5	1	140
	女	48	30	1	5	1	80	9	4	2	180
40～49	男	50	21	4	8	8	51	6	7	3	158
	女	67	20	4	4	5	39	14	6	1	160
50～59	男	69	24	9	10	3	47	12	0	5	179
	女	40	10	7	12	4	33	10	2	1	119
60才以上	男	65	27	9	4	5	55	16	14	5	200
	女	59	7	3	12	4	38	30	2	0	155
合 計	実 数	483	175	48	74	59	580	141	59	18	1,637
	%	29.5	10.7	2.9	4.5	3.6	35.5	8.6	3.6	1.1	100

※男女別の政党支持状況は自民党が圧倒的に強く 29.5%の支持率を占めている。次いで社会党10.7%, ③公明党4.5%, ④共産党3.6%, ⑤民社党2.9%となっている。しかし「支持政党なし」35.5%, 「わからない」8.6%, 「その他」3.6%を合すると可成りの数にのぼり政治不信につながる要素を多分に含んでいるものと思われる。これはまた選挙における信頼と不信にもつながる問題をも提起し、流動化する市民の政治意識として別に考え直さねばなるまい。ちなみに調査対象地区の選出議員をみると千葉市の定員52名のうち11名(保守系5, 革新系6(共1, 社1,))となっている。(千葉市役所よりの資料)

Ⅲ. 調査結果の分析

〔1〕 市政に関する市民の知識

この項では（A）市長の名前を知っているか、（B）市長のきめ方を知っているか、（C）市議や県議の名前を知っているか、（D）市民税の納税額を覚えているか、（E）市の人口を知っているかのごくありふれた問で、それぞれ聴取してみた。

（A） 市長の名前を知っているか。

自分の住んでいる市の市長の名前を知っている市民は、どのぐらいいるであろうか。いうまでもなく

市長の知名度は市政への関心を計る尺度となっている。市民の市政参加意思との関連を考へてみたとき、市政に参加する意思の強いものほど知名度は高いのである。つまり市政への関心が強いものは、そ

【問】 あなたは現在住んでいる市の市長の名前をごぞんじですか

	実数	%
知っている……………	1,227	75.0
聞いたことがあるが覚えていない……………	248	15.1
知らない……………	152	9.3
その他……………	10	0.6
計……………	1,637	100

れだけ市民参加を望んでいるからである。調査の結果は「知っている」市民が75.0%、「聞いたことがあるが覚えていない」市民が15.1%となっている。この2つをあわせるとなんと90.1%となり、「知らない」と「その他」の市民9.9%は問題にならない。流動性の激しい大都会と違って、みずからの手で市長をえらび、みずからの自治体を建設していく意気どみが感ぜられる。この調査の実施期間中、荒木市長が急逝し新市長（52年7月10日）の誕生をみたのであるが、この設問をいま実施してみるとどの程度、市長の名前を知っているか、興味あるところであろう。では属性別に相関関係をみるとどういふ結果が得られるかを参考まで記しておく。

図表 7. 市長の名前を知っているか

年齢別(男女)		知っている	聞いたことがある が覚えていない	知らない	その他	計
20～29才	男	91	32	34	0	157
	女	112	53	24	0	189
30～39才	男	105	24	10	1	140
	女	155	18	7	0	180
40～49才	男	139	12	7	0	158
	女	143	16	0	1	160
50～59才	男	149	22	4	4	179
	女	90	17	12	0	119
60才以上	男	146	26	25	3	200
	女	97	28	29	1	155
合 計	計	1,227	248	152	10	1,637
	%	75.0%	15.1%	9.3%	0.6%	100%

属性別の「表」をみると「知っている」率がきわめて高く、すべての世代が5割を越えているのは矢張り「地方」の特色を示している。東京では5割台を占めているものが40～50代の男ぐらいのものである。順位をなべてみると①40代女89.3%、②40代男87.9%、③30代女86.1%、④50代男83.2%、⑤50代女75.6%、⑥30代男75.0%、⑦60代男73%、⑧60代女62.5%、⑨20代女59.2%、⑩20代男58.6%になっている。「聞いたことがあるが覚えていない」ものは男にくらべ女に比較的多くみられる。この結果、男女別では男のほうに「知っている」ものが多く、女に「知らない」ものが多いことになる。「聞いたことがあるが覚えていない」と「知らない」を組合せると20代の男女が多く、政治にやや無関心さを示している。次いで60代の順になるが、これは転居とか高令者の故に質問に応じなかったせいである。ともあれこの表でみるかぎり、市長の名前を「知っている」ものと「知らない」ものとの間には男女別、世代別にみて、これとって大きな差がないことを知る。尙、現在の市に住みはじめた年代と市長の知名度との関係を知るために居住年数別に検討してみる必要がある。もとより居住

千葉市民における自治意識の世論調査について

年数の長短が市長の知名度の高低に必ずしも一致するものでない、としても居住年数という市民側の条件と市長の在職年数とが相互に動きながら関係しあっているとしてとらえなければなるまい。ただここで問題になるのは市民がどのような機会を通じて市長の名前と触れあうかということにある。さきにも述べておいたようにこの調査地域は、著しく開発されてきた土地柄なので役所との接触度をみなければならぬ。この関係については経験からみた市民の意識調査のところで述べることにしたい。

(B) 市長のきめ方を知っているか。

市長は市民の公選で選出されるのであるから、表に示されているように約90%を占めているのは当然

の帰結であるといえる。一般に自治体の首長の決め方といえ、住民の直接選挙が頭に浮かんでくるのが常識であって、この常識というイメージがあるということは、同時にあるべき姿の自治意識が強い

【問】 市長はいまどんな方法で決められると思いますか		
	実数	%
市民の選挙によって決める	1,464	89.4
県知事が任命して決める…	15	0.9
市議会でえらぶ……………	34	2.1
わからない……………	110	6.7
その他……………	14	0.9
計	1,637	100

ことを意味するのである。「市長のきめ方を知っているか」を男女年令別表でみると次の如くなる。すなわち正解者の9割台が①40代女98.1%、②40代男96.7%、③30代女95.0%、④50代男94.9%、⑤30代男92.8%、⑥60代男90.5%と圧倒的に多く⑦20代女86.7%と⑧50代女81.5%が8割台、⑨20代男77.7%と⑩60代女76.7%が7割台となっている。正解者は女よりも男が多く、「市長の名前を知っているか」の調査と同じ傾向である。

市長がどんな方法で決められるか——ということは市民意識からいっても当然知っておかなければならないことであるが、この調査にあたって考えさせられるのはつぎの点にあった。すなわち「わからない」のなかで2ケタ台のものが50代の女、60代の男女、20代の男女、というようにいわば世代

図表 8. 市長のきめ方を知っているか (男女年令別)

年令別(男女)	市民の選挙によってきめる	県知事が任命して決める	市議会でえらぶ	わからない	その他	計	
20～29才	男	122	3	10	21	1	157
	女	164	3	7	14	1	189
30～39才	男	130	2	2	2	4	140
	女	171	3	4	2	0	180
40～49才	男	153	0	0	3	2	158
	女	157	0	1	2	0	160
50～59才	男	170	0	2	3	4	179
	女	97	4	3	15	0	119
60才以上	男	181	0	2	16	1	200
	女	119	0	3	32	1	155
合計		1,464	15	34	110	14	1,637
		89.4%	0.9%	2.1%	6.7%	0.9%	100%

のかけはなれたもの同志が奇妙に一致していることにあった。大体、20代は国政レベルよりも地方政治にたいする無関心ぶりが一層ひどく感ぜられ、解答に対しても空漠たるものが見出される。60代はやや非協力的で俗にいう「面倒くさい」という心理的影響が作用しているようにお見受けする。しかし全般的にみて「知らない」と答えているものが約1割ということは、住民の政治姿勢がそれだけ最初の政府としての地方自治を自覚していることになる。従って「市長のきめ方を知っているか」との設問は単純なものではなく、行政それ自体をヨリ住民自身のものとするための一つの大きな礎をきづく証左ともなるのである。

(C) 市議や県議の名前を知っているか。

居住市内選出の市議会議員と県議会議員の名前を知って

【問】 あなたは市の市議会議員や県議会議員の名前をごぞんじですか	実数	%
市議会議員も県議会議員も知っている	711	43.4
市議会議員だけ知っている	374	22.8
県議会議員だけ知っている	96	5.9
どちらも知らない	366	22.4
その他	90	5.5
計	1,637	100

千葉市民における自治意識の世論調査について

いる市民はどれだけいるだろうか。「市議も県議も知っている」市民は43.4%で、「どちらも知らない」市民は22.4%である。また「市議会議員だけ知っている」市民は22.8%で、「県議会議員だけ知っている」市民は5.9%である。この結果、市議会議員は全体の66.2%を占め半数以上の市民から名前を知られていることになる。また住民によって選出されている議員と住民との間には面識の度合は別としても、この両者間にはある程度の関わり合いがあることを発見できる。また県議会議員は全体からみれば49.3%となり約5割近く知られていることになる。この調査は前述の如く50年におこなわれた統一地方選挙の翌年であったため、それぞれの調査実施時点で議員の名前を比較的覚えていたことに他ならない。男女年令別では「市議会議員も県議会議員も知っている」率が高くなっている。①40代男の65.1%、②50代男59.7%、③50代女48.7%、④40代女46.2%、⑤60代男44.5%、⑥60代女41.2%、⑦30代男40%、⑧30代女34.4%、⑨20代男31.8%、⑩20代女25.3%の順で男が多い。反対に「市議だけ知っている」では女の方が多く、「県議だけ」では男の率が女を上回っている。「どちらも知らない」は女に多く、それぞれについて男女世代別の特徴がみられる。すなわち「県議、市議両方」は中・高年の男、「市議のみ」は中・高年の女、「県議のみ」は高年の男、「どちらも知らない」は若・高年の女が目立っている。その他に学歴別、職業別、居住年数別との分析があるが、これとって問題はないので省略する。

(D) 市民税の納税額を覚えているか。

納税の知識度をみると、自分がどのくらい市民税を払っているかを知っているか。そしてその税金がどのようにし

【問】 あなたご自身が（あるいはあなたの家で）市民税をいくら払っているか金額をごぞんじですか

	実数	%
はっきり知っている……………	395	24.1
だいたい知っている……………	659	40.4
知らない……………	480	29.3
払っていない……………	63	3.8
その他……………	40	2.4
計……………	1,637	100

て使われているかの問題に突き当らざるを得ない。この納税額の自覚は市民的自覚にもとづく市政への参加の基底をなすものとして非常に重要な意味をもっている。この身近な問題にたいする関心は、行政への市民的監視を育てるものであり、都市における民主主義の確立にとっても不可欠の要素である。「はっきり」と「だいたい」をあわせて「知っている」ものが64.5%で、「知らない」ものが29.3%である。全体的にみると40代男～50代男～30代男の3グループが6割台で、40代女～60代男～50代女～30代女の4グループがやや5割をこし、残りの60代女、20代女、20代男の3グループが極端に低くなっている。ただこの項で特に忠告しておきたいことは、政治への参加の1つの形態は「納税」の自覚度にあるということである。従ってその高低が政治意識にもつながっていくことを忘れてはならない。

(E) 市の人口を知っているか。

「100万都市をめざす」という千葉市の人口の増加は折にふれてマスコミなどで報道されている。市民の人口につい

【問】 あなたは現在住んでいる市の人口はどのくらいかごぞんじですか

	実数	%
はっきり知っている……………	210	12.8
だいたい知っている……………	852	52.1
知らない……………	548	33.5
その他……………	27	1.6
計……………	1,637	100

ての知覚度合は大同小異、自分たちの自治体に対する意識度合とも関連してくるものと考えられる。「一つの基礎的自治体の人口はその収容規模の適否をめぐる、行政サービスの効率的普及や行政への住民参加の可能性などの面から論じられる問題でもある」といわれているが、現在市に住んでいる人たちは、どのように市の人口問題を考えているであろうか。今後の課題として研究してみる必要がある。調査結果によると「はっきり知っている」と「だいたい知っている」をあわせると64.9%で、やっと6割台に上昇している。だが「知らない」ものが33.5%と案外な率を示しているのはどういふわけであろうか。最近この土地は著しく人口の流入がはげし

千葉市民における自治意識の世論調査について

さを増し、調査対象者そのものが新しい市民であったり、また人口増減に関するニュース量の少なさなどに原因があるかも知れない。もちろんその他にもいろいろ理由があるとしても今回はこの程度に止めておきたい。

〔2〕 経験からみた市民の意識

この項は（A）市役所や県庁にどれくらいいくか、（B）市政の情報をなにかから得るか、（C）身近な問題の処理をどうするか、（D）町会・自治会をどう考えるか、（1-2）、（E）市議会議員になにを期待するか
の5項目に調査の視点を求めてみることにした。多様化し変貌していく社会情勢をふまえ、住民のエネルギーがどのようなパターンで市政とのかかわり合いをもっているかを究明できれば幸いである。

（A）市役所や県庁にどれくらいいくか。

市役所と接触をもっているのが54.1%となっている。これに対して県庁に接触したことのある市民は

グンと少なく、僅か5.4%にしかすぎない。残り37.1%は「どちらもない」方でかなり多数にのぼっている。調査結果をみると、まず市との接触では男52.9%、女47.1%となっている。世代別に接触の多

【問】あなたは、この1年間に市役所（出張所、支所）または県庁にでかけた
り電話をした経験がございませうか

	実数	%
市 役 所.....	885	54.1
県 庁.....	88	5.4
どちらもない.....	608	37.1
そ の 他.....	56	3.4
計	1,637	100

いものをあげると ①40代女67.5%、②50代男63.6%、③40代男 59.4%、④50代女57.9%、⑤30代女57.7%、⑥30代男57.1%、⑦60代男53.5%となっておりこの7者は大体において平均している。これを職業別にみると、自営業と主婦の接触度が幾分高くなっており、商売上、あるいは主婦の役目として市役所にいかなければならないという頻度の高いことを物語っている。⑧20代男47.1%、⑨20代女46.5%はやや低く、⑩60代女30.3%は極端に低くなっている。世代別など属性的差異はあまりみられなく、市民で

あればだれでも市役所と関わりをもつものであることは言うまでもない。だが役所というところは以外に不親切であり、事務的で冷たい感じのするところでもあり、またダラダラして怠慢なムードが漂っているところであるとの否定的評価がくだされ、この調査に当っては一体に役所へいくことが億劫であるとの印象が強くみられる。

(B) 市政の情報をなにかから得るか。

市民は市政に関する情報を何から得ているか。調査によれば市民の66.3%が市の「お知らせ」を読んでいることになっている。次に「新聞」や

「ラジオ・テレビ」といったようにマスコミを媒体にして情報を得ているものが合計21%、また「町会・自治会を通して」とか「議員の話など」といった人と人との接触によるものが合計して6.7%になっている。ここで注意してみ

	実数	%
【問】 市のやっている仕事や市がかかえている問題などについて、あなたは次のうち、主になにによって知っていましたか		
市の「お知らせ」で……………	1,085	66.3
新聞で……………	284	17.3
ラジオ・テレビで……………	60	3.7
町会・自治会を通して……………	92	5.6
議員の話などで……………	18	1.1
その他……………	98	6.0
計……………	1,637	100

ることは「新聞」・「ラジオ」・「テレビ」にたいする依存度が少ないことである。つまりマスコミ機関が市政の情報伝達にあまり機能を発揮していないことを意味している。また人と人との接触による市政情報の取得が少ないのは都市における特有のタテ割社会の現実の姿を浮きぼりにしている。市がみずから発行する「お知らせ」版は発行回数や配布の方法がマチマチであっても、市民にとっては最大の情報源になっていることにまちがいないのである。それでは「お知らせ」を頼りにしている人びとを男女年齢別にみてみよう。①40才女77.5%、②30代女76.6%、③50代男73.7%、④50代女73.1%、⑤30代男66.4%⑥60代男64%の6グループが平均をオーバーしている。次いで⑦40代男59.4%、⑧60代女58.0%、⑨20代女56.4%、⑩20代男52.7%となってい

千葉市民における自治意識の世論調査について

る。しかし「新聞」で情報を得ているものは①40代男，②20代男，③20代女，④30代男，⑤30代女となっており，活字情報によるものが案外若年層に多いのである。「ラジオ・テレビ」は60代男，「町会・自治会を通して」は60代の女，また「議員の話などで」は40代の女というように注目に値するものが見出される。

(C) 身近な問題の処理をどうするか。

県や市の仕事で「身近に問題が起きた」とき，市民がその問題の処理にどのような姿勢で臨むのか，日常的な市民の考え方をみつめてみよう。調査では「県や市に連絡する」ことによって解決の糸口をつかむという市民はわずかに34.4%で，頼りなさが目立っている。これについてはいろ

【問】 県や市の仕事であなたの身近に問題が起きたとき，あなたはどうしますか

	実数	%
県や市に連絡する……………	561	34.4
近所の人と相談する……………	370	22.6
知っている議員に相談する	120	7.3
地元の有力者に相談する…	22	1.3
町会や自治会でとりあげ… てもらおう	234	14.3
放っておく……………	89	5.4
わからない……………	192	11.7
そ の 他……………	49	3.0
計	1,637	100

いろの理由があろうが，役所との接触度合と信頼度が希薄であることを雄弁に物語っている。「県や市の仕事」だから，当然「県や市に連絡」するわけだが，どうしてよいか「わからない」人や「放っておく」という17.1%の人びとをのぞいた48.5%の市民は別な方法で解決にあたっている。すなわち「近所の人と相談する」というものが22.6%，「町会や自治会でとりあげてもらおう」というものが14.3%で，この同類的なものをあわせると36.9%となり，34.4%の「県や市に連絡する」方を上回っていることは注目されるところである。また知りあいの議員や地元有力者に相談するものが9.6%となっているので，それぞれの特性をもった人びとを検討してみる必要がある。まず男女年齢別をみると「県や市に連絡する」ものは男に多く，30代の女を除く他の世代の女性群はいずれも低率になっている。

「近所の人と相談する」では女の方が概して多く、「議員や有力者」に話をもちかけるものは60才以上の男女で高年令層に多くみられる。逆に20代の男女はそれぞれ最低の比率を示している。つぎに「町会や自治会でとりあげてもらおう」のは平均化している、としても、矢張り「議員や有力者」の場合と同様に高年層に多くみられる傾向がある。処理しないで「放っておく」とかあるいは「わからない」と答えているものには20代の男女がトップをきっているが、うなずけそうな結果である。要するに調査対象地区が市内の新興的開拓地域の住宅地だけに、教育程度の比較的高いものと、低いものや、役所との接触度合の強いものと弱いもの、文化的知識度合の深淺、あるいは政治的無知によるものが、おりかさなって混沌状態になっているがために心して追究しなければならない。ともあれ(C)項の調査は市政にかかわりのある問題の処理だけに、市政参加の行動や意識の形態をみるのに役立つものと言えよう。

(D) 町会・自治会をどう考えるか(1-2)。

千葉市役所市民課の話しによれば千葉市内には町会・自治会が671(昭52.8.1.現在)ほど結成されているという。さまざまな名称をもっているこれらの地域団体組織は、

地域住民の共同の利益をはかたり、時には行政の補助的機能をはたしていることはいうまでもない。もとより町会・自治会は地区によって目的や活動の強弱などにちがいがありにしても、多かれ少なかれ市民の生活や末端の政治とかかわりをもっているのである。従ってこの調査では対象

【問】町会や自治会が一番力をそそぐべきだと思ふことを次のうちから一つえらんで下さい

	実数	%
消費物資の共同購入や..... 商店対策など	313	19.1
県や市に対する要求・..... 陳情活動	363	22.1
薬の撒布などの市の仕..... 事の補助	95	5.8
親 陸 活 動.....	132	8.1
料理や手芸などの講習会...	42	2.6
とくになし.....	579	35.3
そ の 他.....	113	7.0
計	1,637	100

千葉市民における自治意識の世論調査について

者が一応、町会・自治会に加入していることを前提として「町会や自治会が一番力をそそぐべきことは何か」を質問してみることにした。その結果、「とくになし」と答えた35.3%の市民のほか、6割弱の市民がそれぞれの問いに回答しているのでこれを分析してみたい。そのなかで一番多いのが「県や市に対する要求

【問】 あなたはいまの町会や自治会にはどんな欠陥があると思いますか。主なものを一つえらんで下さい

	実数	%
今の運営の仕方は民主的でない	117	7.1
会費はとるが何をしているかわからない	355	21.7
行事が多すぎる	45	2.7
一部の政党や議員に結びついている	99	6.0
行政の下請機関になりすぎている	83	5.1
とくになし	783	47.9
その他	155	9.5
計	1,637	100

・陳情活動」に力をそそぐべきだと主張する意見であって、22.1%の比率を示している。この設問は「県や市の仕事で身近に問題がおきたとき」の市民の解決方法と同声相応の姿勢であって等閑視できない。つまり「消費物資の共同購入や商店対策など」のいわば生活防衛に関する積極的な意見の19.1%をあわせると41.2%となり、身近な問題の処理を「県や市に連絡」して解決しようとする人びとよりも上回っていることを知るであろう。次に行政の下請活動を強調しているものと思われる「葉の撒布」が5.8%、「親睦活動」や「料理・手芸の講習会」などを希望している市民があわせて10.7%となっている。要するにこの調査は町会・自治会を市政に関連せしめてどのように考えていくかを知るために設けたものである。ここではその知識度や期待度に特筆すべきものがないが前述の(C)項の問題にウエイトがかかっているので再考すべきものがある。

(E) 市議会議員になにを期待するか。

それでは市民は市議会議員にたいしてどんな希望をもっているかを検討してみよう。性質のちがう7つの回答と「なにもない」, 「その他」の2つをあわせた9つのなかから2つずつ選んでもらった。結果は、「市政全

体の発展を考えること」を希望した市民が20.7%。これと反対の意味をもつ「地元の世話を重視すること」を希望する人びとは9.5%で政治的性格の複雑さを露呈せしめている。また注目されることは、「いばらず庶民の感覚をもつこと」をあげた市民が17.6%と「市政全体」について二番手にあがっていることである。都会では「黒い霧」という言葉のニュアンスから、「不正・汚職の監視にきびしいこと」が「市政全体」の次にくるものと判定されるが、えてして地方政治の感触としてはいばるという議員性格の方が先行しており、地元民の心理的負担になっているらしい。

〔問〕 あなたは市議会議員に対してどんな希望をおもちですか。次のうちから二つえらんで下さい

	実数	%
政策をもつこと……………	385	11.8
議員の仕事に専念し専門家になること	371	11.3
市政全体の発展を考え……	676	20.7
政党の立場をはっきりさせること	200	6.1
地元の世話を重視すること	312	9.5
いばらずに庶民の感覚をもつこと	575	17.6
不正・汚職の監視にきびしいこと	322	9.8
なにもない……………	227	6.9
その他……………	206	6.3
計……………	3,274	100

議員は専門職か、名誉職かといった問題はつねにいわれており、これは古くて新しい問題になっている。「議員の仕事に専念し専門家になること」を希望している市民は11.3%。そして「政策をもつこと」をあげた市民は%11.8であり、「政党の立場をはっきりさせること」ではわずかに6.1%を保っている程度であるが議員→専門家→政策→政党というスジの通った線をあわせてみると29.2%となり、これは政治意識高揚のきざしをみせている。男女年令別では「市政全体」希望が①30代男26.0%、②20代女25.8%、③30代女24.7%、④40代女23.1%、⑤50代男20.1%となっており、男女の差はないが世代別では若年、中年層に多い。「政策」の方は、①50代男、②40代男、③60代男、④30代女と50代女、⑤30代男というよう

千葉市民における自治意識の世論調査について

に男の方が断然女をぬいている。「議員の仕事に専念し、専門家になる」方も男が上回っているが、「いばらずに庶民の感覚をもつこと」は女が圧倒的に多い。「地元の世話」の方も女が多く、世代では中年・高年層に多い。「政党」と「不正・汚職」の方は男女とも全くの五分五分でありその差がみられない。要するに市民が市議会議員に期待しているのは①政策マン→専門家→政党政派、②庶民感覚→不正監視、③区政全体→地元の世話という三つの線から考えてみると、別にこれとって大きな差異を見出せないにしても、調査地域における人びとが、あるがままの住民のエネルギーをできるだけストレートに、市政に反映しうるようにそれぞれの立場において模索しながら回答しているようである。

む す び

住民参加の政治はつねに民意尊重行政の態度と関連する。このような意味で行政施策と住民意志の接点としての、また住民と行政のコミュニケーションの場としての調査機関に課せられた期待はきわめて大きいものと思う。しかし日本社会には政治に関する民間の調査機関が余りにも少なく、この種の研究調査は非常に困難を来たしている。従って調査の実施に当っては地方政治のそれとは若干くいちがいのある特別区の調査専門機関である「東京都政調査会」、また議会制度研究会等の世論調査におけるアンケートを止むを得ず採用させていただいた。ゼミ学生の学習をより有効に導くために調査対象地域に相応する内容をおりこみ、大巾に修正を加え、これを基礎的指標として用いたことをご宥願したい。またこの調査は住民意思の指向性をできる限り公平な立場から数値的に解明することに力をそそいだために、対応策にまで至らなかったこととお詫びしたい。なお不十分な点は改めてご教示を賜ることにして筆を措く。